

過激教育工場

作 切傷甲



近年 若者達による
反道徳・反社会的な
振る舞いが社会問題と
なっている

その被害は
無視できない
規模へと拡大

大人は彼らを恐れ
過激で即効性のある
解決法を求めた

苦めを



そして遂に
某県某所にて
恐ろしい施設が
建設される

「危険人格児童
再教育センター」

市民からの通報により
危険人物と判断された
若者たちがここに
收容されるのだ



今日もここに
三人の美少女が
連行された

これから彼女らは
再教育が完了したと
見なされるまで
恥辱と苦痛にまみれた
日々を送るのである……



第1收容者
「貝原 ケイコ」

知能指数200を
超える超天才児
それが彼女だ

その知能の高さ故に
周囲の人間を見下し
敬意に欠く態度を
取り続けた

頭の悪い者は
人間と見做さない
と言う選民思想が
危険因子として
判断されたのだ

「わ 私の頭脳は
国の宝ですよ！」

「私に何かすると言う事は
つまり 国益に反する
言う事であって……！」



「国の役に立つねえ
べつに頭じゃなく
他の部位でも役に
立てるんじゃない？」

「例えば、その
可愛いおまんこ
とかさ！」

「うっ……」

施設に收容された
少女は、まず最初に
全裸にさせられる

その後、少女らの
性格に応じて専用の
矯正カリキュラムが
実施されるのである

「おっ 処女じゃらん！
ちゃんと膜が付いてて
偉いね〜！」

「セックス経験は
無くてもオナニーで
破っちゃう子も
居るからね」

「うっ……
やめて……！」

ティ
ン

く
ちゅ



「はひっ
あひっ
ききひっ」

「いくっ
はひっ」

「いぐっ
ぎもぢくなるうう」

「アアアア!!」

「はひっ
はひっ
はひっ」



「アウウ」

「はひっ
はひっ」

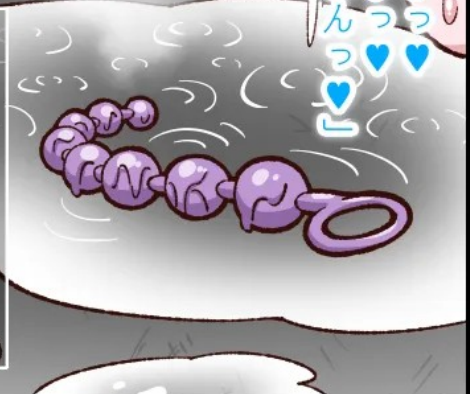
「はひっ
はひっ」

「はひっ
はひっ」

「はひっ
はひんっ」

「だがまだ解放の時では無い
むしろこれからが本番
なのであった……」

「少女はこの快楽を
知ってしまつた
たとえ施設から
解放されても
再びこの刺激を
求めるだろう」





「おおつ……
んおおお……
しゅごおお……」

「せーえきつ
しゅごおお……
しきゅうに
しみこむ……」

スッ
スッ
スッ
スッ
スッ

どぼり
どぼり
どぼり



「おつ
ちんぽつ
ちんぽつ
いっちや
やだあつ」

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

「あくあ すっげえ顔！
とても小学生とは
思えねーな！」

「んへええ……
ちんぽおお……」

「そんなにチンポが
欲しいならいくらでも
くれてやるよ！」

どぼり
どぼり
どぼり



「あぁっ♡
ぎもぢいっ♡♡♡
ぎもぢいっ♡♡♡」

ケイコへの
人格矯正は
まだ終わらない

「はぁ♡ はぁ♡
ちんぽぁぁ♡♡♡」

れっん
にゅにゅにゅ
にゅにゅにゅ

「あひいっ♡♡♡
おちりいっ♡♡♡」

「おっ♡んおっ♡
びゅーびゅーいっ♡
子宮タプタプマイっ♡♡♡」

セックスの事以外
全く興味を持たない
完全な色情狂に
なるまで処置は続く



施設への収容から
10日が経過……

「おおっ♡♡
ちんぽっ♡♡
おちんぽっ♡♡」

「おちんぽっ♡♡♡
おちんぽーっ♡♡♡
ちんぽちんぽっ♡♡♡
ちんぽおおくっ♡♡♡」

「ちんぽおお……」

もはやまともな
会話すら出来ない程
ケイコの知能は低下

自分が欲しい物を
ひたすら連呼する
だけの惨めな生物へと
なり下がっていた

おちんぽっ♡♡
ちんぽっ♡♡

おちんぽっ♡♡
ちんぽっ♡♡

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

検査の結果
脳に不可逆な
変化を確認

「おひいっ
んはひいっ
ほひいんっ」

人格矯正は
完全に成功した

「ちんぽっ♡♡
せつくすっ♡♡
せつくすちんぽっ♡♡」

「おまんこせつくすっ♡
おまんこあなるっ♡
あなるちんぽっ♡
ちんぽまんこっ♡」

「せつくすーっ♡♡♡♡
れいぷせつくすーっ♡♡♡♡」

貝原ケイコは以後
性奴隷として
社会の役に立つ事が
決定したのであった



第2收容者
「春野ホナミ」

その愛嬌と
豊富な肉体で
男に媚びを売り
楽な人生を
送り続けた

だがその裏では
男を嘲笑っており
自分に近づく者を
何人も貢がせ破産
させた悪女である

「うひょろろろ！
ホナミちゃん可愛いぞ！
今日から毎日たっぷり
愛を送ってあげるね！」

「ううそでしょ……？
何かの冗談よね……？」

ヒッタン！



「んぎゃっ!!!」

「痛いっ! 痛いっ!!
痛いよおおおっ!!」

「ホナミの矯正カリキュラムは
「強制妊娠による愛への恐怖」
が実施される事となった」

愛の感情を利用し
他者を搾取した
罰として

強引な愛を
胎内に送り込み
妊娠出産させる

愛の重さを
その身をもって
思い知らせる
のである

「っ! がゴムしてねーじゃん!!
妊娠しちゃうっ! やめろっ!!
やめろっ! 言ってんだよー!!」

「んぎゃん!!
んぎゃん!!
んぎゃん!!」

妊娠中もレイプは
継続して行われる

健康的な母子の発育は
適度な運動(レイプ)
によって育まれるのだ

ぱんぱんぱんぱん

「もう母乳が出てるよ！
体はすっかりママだね〜！」

「な　なんで……
まだ産んでも
いないのに……」

「あっ！ あっ！
いやだっ
いやだっ！」

「お腹重たいのっ！
や　休ませてよあっ！」

ゆっせ

アキアキ

アキアキ

ほちん

「ひゅ……
ひゅ……」

とととととと
とととととと
とととととと

ほちん



適切な健康管理
によって赤子は
順調に成長

安定期を超えてからは
1日のレイプ回数を倍の
8回に増やし丹念に膣へ
種汁を送り込む

「すっかりポテ腹に
なつたな
昔が懐かしいよ」

「もあやめてよあーっ！
お汁と赤ちゃんぞ
お腹いっぱいなのあーっ！」

めちゃん
めちゃん

「うっ
あううっ……」

そして
施設収容から
276日後……

びしょびしょ

ぽんぽん
ぽんぽん

たっ
たっ

プッ
プッ

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

にゃ
にゃ

にゃ
にゃ

にゃ
にゃ

にゃ
にゃ

ぶちゅーっ!
ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!

「はーっ!
はひーっ!
うぐひっっ!」
「ぐっ ぐるじっ……
お おなか痛いっ!
赤ちゃん
暴れてるうっ……!」

「おしい
赤ちゃん!
出ておいで〜!」

「ミルクいっぱい
あるよ〜!
もしも〜!」

ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!
ぶちゅーっ!
ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!

「も
セックス終りにしてえーっ!!」
もう生まれるからっ!

ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!

ぶちゅーっ!



「産むからあ
あつ
ゆるじでえ
えつ……!」



「お！ 破水したね！
遂に赤ちゃんが
出て来るよ！」

「ひ
赤ちゃんっ……
あ
赤ちゃん
出てくる……！」

「んおおっ！
あかちゃんんっ！！」

ブ
ブ
ブ
ブ
ブ
ブ

びん

びん

「んぎいっ！！」

ブ
ブ
ブ
ブ
ブ
ブ

びん

「おおおおっ！
あ
あかちゃんっ
あかちゃんっ
あああんっ！」

びん

びん



なお 彼女は勘違い
しているようだが
これでカリキュラムが
終了したワケでは無い

最低でも10人は出産し
少子化対策に貢献
してもらおうのである

勘違いしたデブメスガキを
改心させるには
1回の出産では足りないのだ

びしょ

ぽん



「うん、おしよ？」

「ひっ！」

め

びしょ



「うげえッッッ!!」

ぽん!!

「これで終わりよ
思ったか？
なワケねーだろデブ！」

「デメエはこれからも
ガキこさえまくって
産み続けるんだよ！」

どちゃっ！
どちゃっ！
どちゃっ！

「そ
あ
頑張
ったの
にっ！」

ぴしっ！

「出産直後に
妊娠しろおお！！」

「ぎゃばげええっ！！」

どちゃっ！
どちゃっ！

ドド
ババ

どちゃっ！
どちゃっ！

どちゃっ！
どちゃっ！

「はひ……
はひ……
しよ……しよんな……
うしよれしよ……」

「しぬ……
孕み殺される
よおお……」



ずるるる...



「んぐうつ！」

アホッ!

「んぐ...
うつ...」



「男のひと...
馬鹿にしましえん...
お金騙し取りましえん...」

「ゆゆるひへ...
まあ悪い事
しましえん...」

びんぎゅ
びんぎゅ

びんぎゅ
びんぎゅ

春野ホナミの
人格矯正は
ひとまず完了

しかし残り9回の
出産が済むまで
施設からの退所は
認められない

ゴッ

ちなみに
この種付けによって
ホナミは2度目の
妊娠をしたのであった
この受精率であれば
退所は案外早い
かもしれない...

第3収容者
「宝木 チサ」

彼女は第二級の危険人格の持ち主である事が調査で判明している

彼女の父はいわゆる権力者である

その権威を利用して沢山の子供達に残酷な暴力を振るい続けていた

彼女が大人になればその脅威は社会全体に及ぶであろう

そのような事を防ぐためにはどれだけ恐ろしい行為でも当施設では許容されるのである

「あアタシが誰だか判ってるの!？」

「こんな事をしてお父様が黙っちゃいないわよ!」

「アンタなんか一族郎党山に埋めてやるんだから!」



「ああ!?
ンだと
コラアツ!!」

グッ!

「ザッー」

「えっ……?
な 殴った!?」

ほー

「……
このヤロオ……!」

「殺すつ……!!」

×
×
×

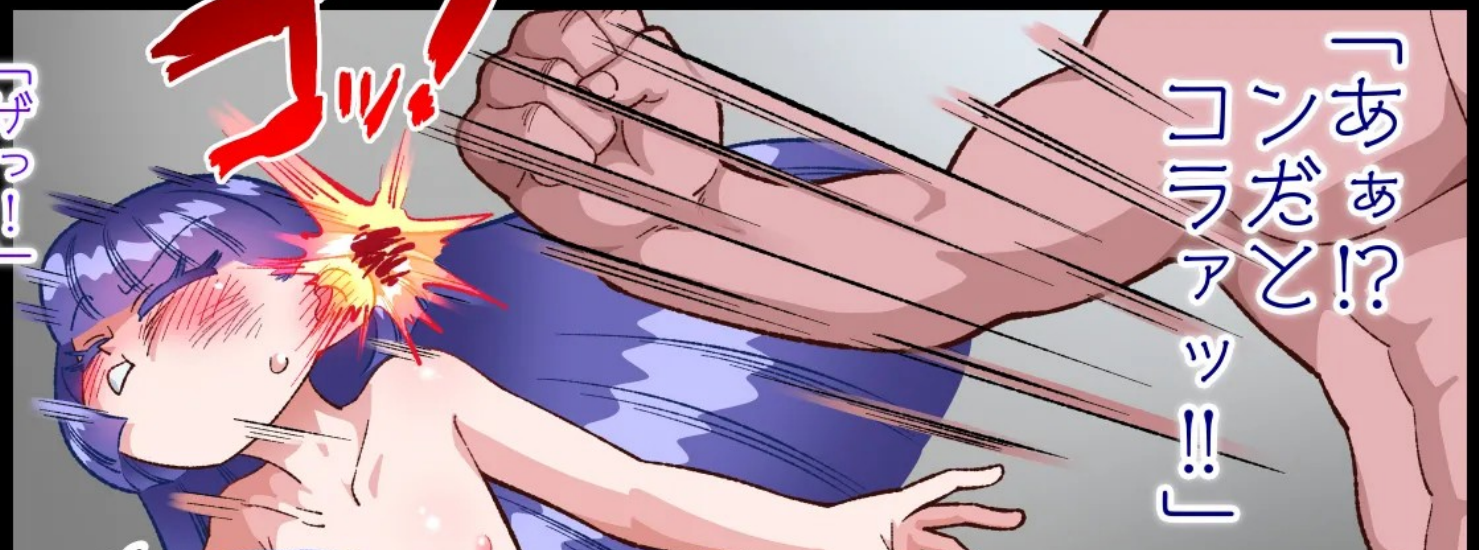
「ぐぺっ!!」

「殺すだア!?
俺がテメエを
殺すんだよ!!」

「ゲボエツ!!
おげえええっ!!」

トス!
トス!
トス!
トス!

「ああ」



「げほっ!!
げほっ!!
ペッペッ!!」

「な なにすっ……
あ アタシの
お腹殴るなんて……!」

「て テメエっ!!」

絶対殺す!
お父様に言って
百回殺して
もらうからな!!」

「だからよお!!」

グ
ニャッ!!

「俺が
殺すんだよ!!」

「ぐべっ!!」

バキッ!!

「お前が殺され
るんだよッッ!!」

「ぶぎゃっ!!」

ガキッ!!

「……」

コッ!

「ぎびっ!!」



施設所員は全員
子供の未来を
第一に考えている

その為 殺処分を
回避する為に
必死になって矯正を
試みるのである

「お？ 死んだか？
いや テメエみてーなクズが
この程度で死ぬワケ
ねえよな？」

「……………」

「だぐま〜」

「ポトツ
ポトツ」

「ほくら
起きろ〜！」

「生き返れ〜！」

「やっ」

「カハ」

「つたく
寝たふりか？
仕方がねえ
起こしてやると
するか！」

「キキッ！！」

「オラアツ！！」

「ぎっ!?」

「ぎゃあああ!!
指があああっ!!」





「起きたか？
じゃあ眠気覚ましに
もう一本っ！」

「痛いっ 痛いっ！
痛いよおおっ！」

「ヤメロオオオ!!」

「あだだっ！」



「何しやがる
クソガキ!!」

はっ



「ナメたまね
しやがってええ！」

「コイツをテメエの
真っ白い肌に
押し付けたら……」

「さぞ綺麗に
跡が付く
だろうなあ！」

「ま まさかっ
そんな……！」

「えっ な何!?
何してるの!？」

「!!」

「あっ！ うあっ！
やだ！ ちよっこ！
いやだっ！」

「お顔は
やだっ！
いやだっ！」

ビュウウウウ！！

「あああああっ！！」

時には単純な暴力では無く
精神的なダメージも
与えると効果的である

抜歯や肌の火傷等の
後に残り続ける傷は
少女の心を傷つける
のに特に有効だ

「あっ
うあっ
お顔っ
あっ
うあっ
お顔っ……」

「跡残っちやうっ
跡残っちやう
よおお……！」

残酷に思われるだろうが
黄色信号が灯った少女の
命を救う為には手段を
選んではいけないのだ

「あくあ
ぶっ殺してえっ！！」

「火傷ごときでこんなに
良い声で鳴いてくれるなら
死ぬ寸前はどれだけエロく
なっちまうんだろうなァ！」

「うえっ？
いやだっ！
もあやだっ！！」



「ぶっ殺される!!
死ねえええ!!」

「ぎゃひいっ!!」

「ぎゃあああ!!
いだいっ!!」

「ぶびっ!!」

「ひゃきゃっ!!」

「あわ あわわ...
こころしゃれりゃ...
こころしゃれちやう...」



「うう あうう ぐすつ ぐすつ
お お願ひしますっ……
も お 許して下さい……」

「お お父様には言いませんから……
あ アタシに悪い所があるなら
直しますから……ぐすつ ぐすつ」

真に受けてはいけない
これはこの手の少女の
常套句である
こちらを油断させて
虎視眈々と反撃の
機会を伺っているのだ

「そこまゝ言うなら
許してやってみて
いいかなア？」

「デメエをいたぶってたら
チンポ起ちまつてよお
レイプさせてくれるんなら
許してやってみていいぜ？」

「選ばせてやるよ
レイプと暴力
どっちが良い？」

「れ……
レイプで……
お願い
します……」

「いいぜえ
そんなにレイプ
されたいなら……」

「……」

「!!!」

「……」

「思う存分レイプしてやるよオ!!」

「ギヤッ!!」

ガッガッ

「自らねだるほどチンポが好きだなんて気づかなかったぜ!」

「もっと早く言ってくれりゃあどつとど処女膜ブチ破ってやったのによオ!」

ガッガッ!!

ばっばっばっ!

ばっばっばっ!

アッ

どろろろろ!

ずるずるずるずる!

「お、お願いしますっこれが終わったらお家に帰してください!」

「あく判った判った家にも土にも帰してやるよ!」



「あく出るっ
中に出すわ
良いよな？」

「あっ！」

「あああっ そんな
うづうづ……」

「あ？
別に良いんだろ？」

「は は……
別に良いです……」

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

このカリキュラムにおいて
処女喪失は矯正効果を
明確には得られていない

いずれ女は処女を
誰かに捧げるものだ
処女を失った女は
むしろ開き直って
したたかになる

なので処女を
奪うかどうかは
担当職員の判断に
任されている

プル

プル

「ずっと……
伸ばしてたのに……」

「あっ！ あっ
あたしの…… 髪……
あたしの髪があ……」

「はい終り！
ったく 無駄に
伸ばしやがって」

「意味ねえんだよ!!
馬鹿じゃねえの!？」

サッ……

セッ!!

ズンズンズン

「お母様が毎日
綺麗に梳いてくれた
大事な髪なのに……」

「あア？」

「……おっす……」

「おっすち帰る!!」



「おうち帰る！
おうち帰る！
チサおうちに
帰るううっ!!」

「なんでチサ
こんな所に居るの!?
チサおうち帰りたい!
痛いイヤ!
あんた嫌いっ!!」

「お母様に会いたい!
お父様に会いたい!!
おうちに帰るのおおっ!!」



「なぐにが
お父様だよボケ!」

「誰がお前をここに
ブチ込んだか
教えてやろうか!」

「え……?」



以上の内容を全て了承し
令和7年10月16日
氏名 宝木 謙一

「ウツ……
お父様……?」

「そういうワケ
だからよお!!」

「そんなア……!」

「あ……
あ……」

統計では
人格矯正センターへの
通報者の2割は
親族からの物である
特に世間体を気にする
職業や家柄の者が
手の付けられない子供を
施設へ送るのだ

「デメエにもう
帰るおうちなんて
無エんだわ!!」

ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ



「死ね！ 死ね！」
「死ね！ 死ね！」

「デメエに苦しめられた
全ての人達の為に
ここで死ね!!」

ゴッゴッ
ゴッゴッ
ゴッゴッ

「うえ……
げほっ
うげえ……
げほっ……」

「あう……
あうう……
ころひへ……」

「ころひへ……
くりゃしゃい……
もお……
楽に……
しへ……」



宝木チサ
施設への収容から
15日後に無事
人格の矯正が完了
しかし親族は彼女の
退所を拒否

その為 彼女の人格が
完全に崩壊し廃人と
なるまで処置は継続
される事が決定された

「じゃあなら
チサちゃん！」

「また明日も
遊んでやるぜ〜！」

かくして3人の
人格矯正は
終わった

だが
矯正が必要な若者は
毎日のように施設へ
収容されて来る

我々は日夜
彼女らの社会復帰の
ために尽力している

キーン

バタン!

もしどこかで
人格の矯正が
必要な若者を
見かけたら

ためらわずに
通報して欲しい

我々施設職員が
徹底的に対象者を
調査し ふさわしい
カリキュラムの
用意が出来次第……

危険人格児童
再教育センター

通報完了

ご協力いただき
ありがとうございました。

彼女らを誘拐し
収容します



終



過激教育工場 終

著者 切傷甲
販売開始 2025年10月



■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

■SNS

<https://x.com/kirikizu1>

■ご意見・ご感想など

https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post